



2021年1月29日

各位

会社名 株式会社アトム
代表者名 代表取締役社長 山角 豪
(コード番号 7412 東証・名証 第二部)
問合せ先 取締役管理本部長 春名 秀樹
(連絡先電話番号 052-784-8400)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社グループは、2020年8月7日に公表致しました2021年3月期の連結業績予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせ致します。

記

1. 連結業績予想数値の修正

2021年3月期(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	38,262	396	453	219	0.82
今回発表予想(B)	32,300	△1,480	△1,385	△2,240	△12.54
増減額(B-A)	△5,962	△1,876	△1,838	△2,459	△13.36
増減率(%)	△15.6	—	—	—	
(参考)前期実績 (2020年3月期)	49,689	1,102	1,183	△2,215	△12.41

2. 修正の理由

当社は2020年4月以降、コスト構造の改革に着手し、費用対効果の精査に努めて損益分岐点の引き下げを鋭意図っております。すなわち、従業員の適正な配置転換による人材の活性化及び人件費の削減、オーナー様のご協力による賃料引き下げ等を行ってまいりました。これにより第2四半期以降については営業利益の黒字化を果たしております。

また10月から実施された「Go To キャンペーン」によって客単価の増加等を実現することができましたが、それとともに収益力の最大化を進めた結果、11月には既存店売上高が前年比103.2%となりました。しかしながら、12月に到来した新型コロナウイルス感染症の第3波によって緊急事態宣言が発令されるに至り、営業時間の短縮および外出自粛要請等によって景況が悪化、売上高は前回発表の予想を下回る見込みとなりました。引き続き当初計画にもとづくコスト構造の改善、固定費の削減による損益分岐点の引き下げに努めておりますが、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益につきましても計画を下回る見込みです。

尚、2022年3月期につきましては、ワクチンの接種開始等により新型コロナウイルス感染症の感染拡大が一定程度抑止され、4月以降は営業時間の短縮や外出自粛の要請が緩和されることが想定されるとともに、政府による追加経済対策の効果も出てくることが期待されるため、既存店売上高は、新型コロナウイルス禍の影響を第3四半期までは受けずに済んだ2020年3月期の実績に対

して95%程度まで回復すると想定しております。

また、新型コロナウイルス感染症は大都市部の繁華街から感染が拡大したとみられておりますが、当社の店舗は青森県から宮崎県までの幅広い地域において、特に郊外に多く立地しておりますことから、新型コロナウイルス禍がある程度沈静化に向かった暁には、大都市部の繁華街に立地している店舗よりも需要の回復が早いと見込まれます。

さらに、2020年4月以降、様々なコスト最適化施策を推進しておりますが、この効果は2021年3月期に一時的に創出されるものではなく、企業体の収益力を抜本的に改革し、損益分岐点を低減させる取り組みです。2021年3月期においては、ワークスケジュールの見直しによる人件費の最適化、オーナー様のご協力による賃料引き下げといった、主に固定費のコスト最適化を実施した結果、損益分岐点売上高は前期比で14.1%低減しております。2022年3月期においては、これまでの取り組みを継続するとともに、各業態の収益基盤を確立するため、ホール、キッチンオペレーションの再設計をはじめとした、変動費のコスト最適化施策を推進し、強い収益基盤の確立を継続して実行してまいります。

以上を踏まえ、2022年3月期連結業績につきましては、以下の業績を想定しております。

売上高 : 41,696 百万円

営業利益 : 2,314 百万円

経常利益 : 2,201 百万円

親会社株主に帰属する当期純利益 : 600 百万円

1株当たり当期純利益 : 2円88銭

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。業績予想の前提に修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示をする予定であります。

以 上